

脳梗塞の息子（七） 就職まで

中村 アキヤ

平成24年9月17日

連休なので葛西の都立水族館に行った。かなり混んでいたがツタンカーメン展よりはマシだった。哲也は二時間半くらい立ちっぱなしで少々疲れた様子だった。

9月23日

初台友の会例会に雨だったのでタクシーで行った。哲也は杖を持たずに左手に傘をもってスムーズに歩いた。このところよく喋るようになって、本人から話しかけられるようになってきた。

友の会では、前回の秋の旅行についてコメントを求められ「三年前の旅行では喋れなかった。去年はカラオケをやった。今年は何をやるのかな？」とやや明確に話が出来た

10月13日

コスモスの高木先生が哲也に「4月までに右手が動くように治療を考えよう」と言われたとか。現在肘は持ち上がるが指はまだ動かない。

10月21日

哲也は初台リハビリ友の会の幡ヶ谷の例会に一人で行った。新宿までバスでゆき、しばらく歩いて京王新線で幡ヶ谷降車、また少し歩いて会場まで。帰宅後少々疲れたらしく直ぐに寝てしまった。

10月28日

友の会のバス旅行で河口湖へ。これで旅行は三回目だが、今回は父親の私が参加できず、一人で行けといわれて少し不安だったらしい。リハビリ友の会の事務局の須田さんに「もう喋れるし一人で大丈夫よ」といわれて「そうお？」といいなながらも嬉しそうだった。

11月8日

私は京王線電車の中で偶然友の会事務局の須田さんに会った。先月の河口湖の旅行に哲也を一人で出したので世話になったお礼を言った。哲也は女性陣に

大いにモテたらしい。父親が居ない方がいいのかも。

カラオケで何曲も歌いまくった様子。阪神の応援歌、雪国、なだそうそう、千の風など。

須田さん曰く「もう一人で何でもできるし歩くのが早いのね、ビックリしたわ。レストランでの昼食のときは、女性群の中に一人呼ばれて結構いじられていたわよ」

帰宅後哲也は旅行については何も言わなかったが満足したらしい。写真を見ると楽しそうだった。ヨカッタ！

11月15日

タイガースの同好会が新宿であった。哲也は前日に会場を確かめに行き、当日は雨が降ったが、杖を持たずに傘をさして出かけた。夜九時頃にタクシーから帰宅途中だと連絡があったので、大通りまで迎えにいった。酔って少しふらついてしたが、一人で飲み会にいけたのは大いに自信になったようだ。

12月2日

西向天神社の奉賛会のバス旅行に参加。磐城の住吉神社に正式参拝後、小名浜のさかな市場で買い物、次いで常磐湯本のハワイアンセンターでフラダンスを見て帰宅。夜は土産の鮫鱈鍋。哲也は大分自信を持ったらしく「これならレンタカーでドライブにいけるな」と言う嬉しそうに「ウン」と答えた。

2

12月8日

総選挙の不在者投票のあと哲也は一人で葛西の地下鉄博物館にいった由。森下駅で地下鉄を乗り換え、三時間ほど帰ってきた。なんでも自前で行動できるとは嬉しい限り。

12月13日

初台友の会のクリスマス食事会に出席。この会では哲也は三年目にして既に有名人である。皆さんから、哲也は河口湖の旅行では率先してカラオケに挑戦し、「千の風」を朗々と歌ったと教えてもらった。

会の後半では、サンタクロースの服装に着替えて、出席者の皆さんにプレゼントを配るお手伝いをした。皆様から「ご苦労様」といわれたと満足そうだった。

12月22, 23日

哲也の叔父の通夜、告別式が府中であった。前夜も喪服のネクタイが結べな

いと半ベソをかけた哲也が、当日はキッチンとネクタイを結んで出席した。左手だけで結ぶのは苦労したらしいが、なんでも努力すれば何とかなる。

12月26日

赤羽の治療終了後、初台の餅つき大会に、一人で行った由。誰に見せるのかネクタイをキッチンと結んで行ったそうだ。

こうして今年も終わった。哲也のリハビリも本人の努力で相当進み、両親も精神的にだいぶ楽になった。あとは言葉をよりスムーズに、そして右手の運動能力を少しでも回復することだ。

来年はもっといろいろな所に哲也を連れて行こう。刺激を与えて脳を活性化することだ。私が彼を外国につれてゆけなくなるのも何年も先ではないのだから、せめて親として出来るときにできるだけのことをやっておかなければ。

平成25年1月1、2日

例年通り親戚が集まった。皆、哲也が大分回復したので喜んでくれた。翌二日は新宿の稲田屋で母親の実家の木下家のみなさんと会食。親父は知らなかったが昨年暮れに哲也は歯科医でインプラントを挿入した由。

1月27日

リハビリ友の会が参宮橋であった。哲也一人で行かせる。会員の一人が不由な右手を使って包丁で野菜を切れるようになったとの報告を聞き、帰宅後急に右手にフォークを持ち、食事をしようとした。まだ無理だが、お仲間の話を聞き触発されたらしい。いい傾向だ。

1月28日

五反田の漢方医と一緒に薬を貰いに行った。地下鉄、JRを乗り継ぎ危なげなく医院までゆき、診療室も一人で入り、医者に受け答えしている。帰りは遠回りして地下鉄を二つ乗り継いで帰った。最近は見違えるように安定し、杖を持たなくても歩けるようになった。春が待ち遠しい。

2月2日

哲也はコスモスへ針治療に出かける際に池の金魚に餌をやり終えて、門の外石段を二十段ほど降りてから杖を持ってないことに気が付き、石段を登って杖をとりに戻った。杖を忘れるようになった！ 素晴らしい進歩だ。

2月8日

初台での医師面接。回復が著しいので足のリハビリは三月から週二回を一回に減らすことにする。手のリハと会話は同じ週二回。哲也に英会話でもやるかと打診した。満更イヤでは無い模様。

2月15日

右手で食事をする練習をしている。食事の度にトライするがまだまだ。

2月20日

高木先生から針治療は週一回にしようかねえと打診された由、喋るほうもこのところ従来より積極的になっている。自分でも手応えを感じているのだろうか？

3月1日

哲也は毎日徹夜に近い苦勞をして友の会の会誌「きらら」の編集やイラスト挿入をやっている。立派な本ができそうだ。

哲也は三月半ばのトルコ旅行にもってゆく携帯髭剃りを購入した。

3月17日（トルコ旅行）

トルコ旅行だ。前夜成田を発って、十一時間を要しアブダビに着く。そこから四時間でイスタンブール着。午後アヤソフィア、モスクなど見学。雨に濡れて磨り減った大理石の階段の昇降に手間取る。団体行動の先が思いやられる。

3月18日

午前中にトロイの遺跡に着いた。バスを降りて三十分ほど瓦礫のある斜面を歩く。哲也の歩行が乱れ、右足が上がらなくなる。長時間シートに座っていたので筋肉が硬直したらしい。ガイドに訳をはなして、トロイ遺跡の見学を途中で諦めて、四十分ほど一行が内部を一巡するのを出口で待つことにした。

哲也は「済みませんねえ」と言ってそこいらを歩き回って調整している。明日はもっと歩かなければならないのに不安だ。

3月19日

観光地エフェソスは紀元前二世紀頃のローマの町の遺跡で貴族の館跡や立派な図書館の建物跡、円形劇場の跡がある。哲也は足を心配して、ガイドの説明を余り聞かず、長い下りの石段をヒョコヒョコ先に降りて行くなど早目に行動して、歩き、問題なく観光できた。

その夜エンヤという街のホテルに温泉施設があつて、二人で無人の浅い温泉プールに浸かった。と、哲也は突然、右半身は不随なので左の手足だけをつかって泳ぎ出した。直線方向には進まないが、哲也は満足して、機嫌が直った。東京に帰ったらコズミックセンターのプールに行きたいという。「オイ、大丈夫かい？」と心配した私が呼びかけると、ニヤリと得意そうに笑った。

3月20日

パムツカレという石灰棚の奇景を見た。野の花が咲き乱れる中にローマの遺跡と石灰棚がある。好天に恵まれ天国にいるような気分。

3月21、22日

今回の最大の目的地カッパドキアに到着。予約していた気球乗りは強風のため運航中止。石灰岩をくり抜いた洞窟ホテルに一泊した。カッパドキアの地下都市に入るには狭い階段が多く、哲也ははじめからギブアップ。

高さ二十米の茸の形をした石柱が林立する広場に立って「こんな景色は、実際にここに来ないと味わえないぞ。君が歩けるようになったからこうして親子で観光できるんだ」と言ったら。哲也は一言だけ「有難う」といってペコリと頭を下げた。

3月23日

イスタンブール観光。トプカプ宮殿の宝石に驚嘆。華麗な短剣やハーレムの部屋を見学した。どんなにきらびやかと期待したが、それほどではなかった。

グランドバザールの雑踏を経験したが、買いたいものはなかった。日本の会社が建造したボスポラス海峡に架かったガラタ橋に、無数の釣り竿が並び鯖を釣っていた。港では新鮮な焼き鯖を挟んだサバサンドとビールを堪能した。ちかくのモスクのミナレットに三日月がかかり日本では味わえない素敵な夕暮れであつた

3月24日

午前中ボスポラス海峡クルーズ。午後帰国便に搭乗し翌日無事成田着。哲也はけっこうな長旅によく耐えた。明日からまた日常に戻るのだ

4月3日

介護の認定の結果、哲也は要介護2から要支援1になる。通常概念からいえば、完治まではいかないが、相当程度治ったということ。介護保険から障害者手帳の管轄になり、Kワーカー、ケアマネジャーは不要になる。これからは

区役所と直接交渉になる由。父親はまた勉強が必要になる。

とにかく介護の手続きはわかり難い。哲也は一人で散歩をしたり、新宿まで買い物にいったりしている。

5月6日

一緒に国立美術館の仏像展に行った。

5月12日

新宿区の施設コズミックセンターでの身障者のための水泳講習会にいった。

参加者三十名のうち十名が指導員という手厚い布陣。指導者の中にも身障者の方がいて、親切に教えてもらった。

5月26日

コズミックセンターのプール。哲也は右手右足不自由のまま、数回の息継ぎで十メートル余りを泳いだ。これには指導員もビックリ。本人は自信を得て、毎週火曜、木曜の身障者用講習会にこようなと意欲を示す。夜は遅くまで読み書きの勉強を続けている。見上げたものである。

6月9日

八時東京駅発の新幹線。十四時からの甲子園阪神戦を見る。私の高校時代の友人の北西君が指定席券を都合してくれた。一泊して翌日帰京。哲也は本場の阪神を見て満足そうだった。試合はマーチンの逆転サヨナラで阪神は首位奪回。

6月24日

哲也リハビリ友の会の食事会に一人で参加。

6月29日

初台に行く途中転んだ由。右ひじと指に絆創膏を貼られて帰ってきた。

7月14日

コズミックセンターの障害者水泳講習会に再度参加。身障者用のためのプールの解放は今日で終わり九月の二週目に再開とのこと。

7月22日

一般用のプールは午前九時からで、早めに到着。この日哲也は合計百五十メートルを泳いだ。翌日、身体が痛いところぼしていたが、当然である。

7月25日

朝からプール。哲也は脱衣所までの滑る通路で転んだ。疲れて帰宅後昼寝をした。八月八日新宿で催眠術の講演があり、行きたいという。高木先生も勧めた由。なんでも可能性のあることはやるのがよろしい。

8月3日

後樂園ドームで阪神巨人戦を見た。チケットは高価だが、それでも大阪へ行くよりは安価。もうすぐ発症後四年目を迎える。

10月25日

あれから四、五回プールに行った。哲也は息継ぎも上手くなり、なんとか泳いでいる。久しぶりの身障者特別解放日で、以前教わった福田先生に再会。今度は左手だけのクロールを教えてもらった。「右足を意識して泳ぐように」とのアドバイスがあった。本人は張り切っているけど付き添いの私は疲れるし、面白くない。哲也の進歩をひたすら願うのみ。

10月27日

哲也は初台友の会で、閉会の辞を指名されてなんとか述べたらしい。初台の訓練では鉛筆で字を書かされたが、筆圧が極度に弱いと言われた由。それでもペンがもてるだけでも相当な進歩だ。ギターも少し弾けるようになったと本人はいうが、右手が少し動くようになったのかも知れない。

10月30日

コップを右手に持たせ、左手を添えてお茶を飲んでいる。高木先生が右手の筋肉が締まって来たという。ギターはアルペジオが出来ないとこぼすが、当たり前のことだ。リズムだけでも弾ければ御の字だが、本当にできているのかは疑問。

ただ、全体的に右肩、腕、手首がよく動くようになってきたようで、本人もその気になっている。右手の指が三本動くようになれば慈恵医大の磁気治療もトライできるのだが。

11月10日

リハビリ友の会の鴨川への一泊バス旅行、哲也は一人で参加し、カラオケなど歌ってエンジョイした由。林会長からもっと声を出す機会をつくるようアドバイスがあった。

11月16日

親父・私の喜寿のお祝いの会食を新宿でおこなった。会場まで徒歩二十分くらいの距離を哲也は杖なしで歩いた。歩く速度も早かった。

11月26日

哲也が以前勤めていた八王子の東京セントラルラボラトリーを訪問した。佐々木会長と原川取締役にご挨拶。哲也は杖ナシで出掛け、応答もなんとか上手く喋ることができた。

11月28日

哲也が以前できなかつたが、右手に持たせた菓子を口元まで持ち上げて食べて見せた。高木先生も右手が治ってきたといわれたとか。少しずつ右手が動くようになってきている。発音が不十分だが、積極的に喋れるようになってきた。喜ばしいことだ。

11月29日

上野国立博物館の「中国至宝展」に行った。比較的空いていて哲也は堪能した様子。疲れて足が痛くなるまであちこち見て回った。

平成26年1月17日

哲也初台からの帰宅が遅い。心配していたが、帰りに渋谷に回って田母神都知事候補の演説を聴きに行った由。

1月26日

二人で大江戸博物館に「浮世絵展」を見にいった。

2月2日

古いパソコンを交換する。哲也は遅くまで奮闘。なんとかかできそう。私が動ける間にできるだけ旅行に連れて行こうとインド旅行を計画した。

3月12日（インド旅行）

「インドゴールデントライアングルに行く5日間」というお手軽なツアーに参加した。デリー、アグラ、ジャイプールを結ぶ一辺約二百キロの三角形は広大なインドの北部に位置するが、一見の価値のある文化遺産が参集している。

成田よりエア・インディア機でデリーに出発。十時間の飛行。夕刻デリーに着いてホテルまでの道路の大混乱に遭遇した。交差点の信号は消えていて、トラック、バス、タクシー、荷車、オートバイ、自転車、それに人間が自分勝手に横断する。ど真ん中に牛が寝そべっている。夕刻が迫る中での騒音。喧噪の怒声、車の警笛。空腹と騒音と疲れに、これがインドだと思ひ知った。

3月13日

8時間走行してアグラ着。壮麗なタジマハールを見学。

3月14日

最後のアグラでちょっとした事件がおこった。朝出発前にホテルの前の石段の下でガイドと談笑しながら、哲也を待っていた。突然ガイドが「アーツ」と声を出したので、振り返ると哲也が石段を降りる途中、三段を残して転倒して下まで転げ落ちた。右手が利かないので衝撃をカバーできず、敷石にまともに右顔面を強打した。

今思い出してもゾットする瞬間だった。急いで助け起こしたが、眼鏡が壊れ側頭部から出血している。幸い意識はあったが、インドの片田舎で病院を探すのも大変だと思った。旅行バスは時間通りに出発し、置いて行かれたらどうすればいいかと身の細る思いだった。

同行の旅行客から絆創膏を貰い傷口をふさぎ、脳震盪でないことを確認し、そのままツアーを続行した。安静を保つためこの日はバスを降りての観光は自粛した。

五日間のすべての食事がカレーで、哲也はケロツとしていたが、私は成田空港に着いた途端トイレに駆け込む羽目になった。

3月19日

今度は新宿で転倒事故。数針縫う。一週間後抜糸

3月22日

東京ドームで阪神巨人戦観戦

就職への道

身体の回復に伴い哲也は現役復帰を目指し、熱心に復帰の勉強をつづけていた。この間の活動は本人が自主的に行ったので、父親の私は詳しくは判らない。

後で詳細をきいても判然としないので概要のみを記す。

平成27年3月16日

哲也は新宿区仕事支援センター研修所に受け入れてもらい、三ヶ月のパソコンの研修を受けた。ワードもエクセルも哲也は熟知しているので、余裕をもって研修を終えたようだ。

4月28日

地域包括支援センターに登録。就職へのガイダンスを受ける。

6月X日

東京都の心身障害者福祉センターに一週間通い、職業評価のテストを受け、その後、高田の馬場にある就労支援センターに入所、職業訓練を受ける。

8月2日

横須賀軍港めぐり（日帰りツアー）

10月8日

四泊五日の九州旅行

10月X日

ハローワーク新宿経由の就職面接試験に応募したが、不採用。来年再チャレンジすることになる。

平成28年8月24日

パソコン設備のある（株）TBSオペレーション高田馬場就労支援センターと設備の利用契約締結。指定就労移行センターに毎日通い、パソコンのスキル習得のサポートを受ける。

この間、哲也の障害年金の申請をしたが一度は却下された。書類を整え再度申請し、裁定の結果過去5年分の年金が一括振り込まれた。以後順調に毎月年金が支給される。

10月X日

昨年に続き就職面接会に再度挑戦。二社受験したがいずれも駄目。再度翌年に期待するしか方法がないのか？

11月X日

哲也はハローワークの担当者と面接し、フルタイムの就職は諦め、週四日のパート就職に方向転換して再度面接に挑戦した。その結果三軒茶屋に本社のある株式会社コアというIT会社と条件が合い、求人票を渡されてきた。

平成29年1月14日

(株)コアの人事担当者とは最終面接した結果、採用決定通知書をわたされる。

二月一日から三月末日までを試用期間とし次の労働条件を提示された。

勤務時間九時半〜十八時 週三十時間勤務(週四日、月火木金勤務)

4月1日

試用期間を無事終了し、本採用と決定し雇用契約を締結した。本人はもちろん家族もホットした。取り敢えずお世話になった方々へ次の通り報告した。

『拝 啓

大型連休も終わり、新緑が一段と映える季節になりました。皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

長男の哲也が脳内出血で倒れたのは、平成二十一年八月のことで、早や七年余りの歳月が経ちました。この間、皆様からいろいろな励ましのお言葉やらリハビリ時のアドバイスなど戴き感謝しております。

病院の先生方、リハビリ友の会の方々など周囲の皆様のご指導、ご協力と本人の涙ぐましい努力の結果、哲也は二か月の試用期間を経て、本年四月から世田谷区三軒茶屋にある(株)コアという一部上場のIT企業に就職させていただくことになりました。

いまだに筋肉麻痺のために右脚には装具をつけ、右手はほとんど用をなさない上、失語症のためスムーズな会話は望めませんが、一度壊れた脳を振り絞って左手だけでパソコンのキーを打ちマウスを操作して、拙いながら単純な事務作業はできるようになりました。現在はエクセルとかアクセスなどのプログラムを用い、人事部での人事情報などのデータ集積・管理をメインの業務としているようです。

私共両親も幸い健康でしたので、ここまで息子の回復の面倒を見ることが出来ました。ようやく肩の荷が半分下りた気がしておりますが、二人とも八十歳

を超えて、自分自身の病院通いの回数が増えてまいりました。

お会いするたびに息子の様子を聞いて下さった方々に、改めて感謝申し上げますとともに、今後とも寛容な気持ちで見守って頂きたく、近況をご報告申し上げます次第であります。これまで本当に有難うございました。敬 具

平成二十九年五月

中村晃也・清恵』

令和1年6月×日

一家での海外旅行はこれで最後かもしれないと思いシンガポールへ三泊四日の旅行に行った。毎日異なる動物園、植物園を散策し美味しい食事を楽しんだ。良い思い出になった。

哲也が三軒茶屋の(株)コア本社に通勤を始めて、早くも五年が経過した。年号も令和に変わり、ここ数年は新型コロナウイルス蔓延のため、哲也は自宅勤務となり、毎日、本社担当者とメール連絡を取っている。

令和4年7月×日

突然、新宿区長から障害者永年勤続者等の表彰式の案内状が舞い込んだ。

9月7日

新宿区の勤労者・仕事支援センターを訪問し、表彰式の詳細を聴取。障害者として五年間勤務した者を対象に、九月十日に牛込笹笥区民ホールで行うという。

永年勤続者が少ないのは、単純作業に飽きて退職するとか、職場の人間関係から長続きしない人が多いためらしい。体の不自由な人を受け入れる職場も大変なことだと思う。

五年勤続した者は定年まで雇用される由で、哲也は一瞬しり込みをしたが、「これは君の努力とお父さんの献身に対する表彰と考えてくれ」といった了承してもらった。

9月10日

吉住新宿区長出席の下、笹笥町区民ホールで表彰式に出席した。表彰対象者は十数名で、ほとんどが五年勤続者だ。職種はいろいろだが、仕事の内容は職場の清掃、シュレッダーの操作、資料のPDF化、郵便物の仕分け、データ入力などの軽作業で、哲也の人事資料の仕分けと入力は高級のほうだ。

新宿区長が表彰状を読み上げる間に、過去十二年の事柄が走馬灯のように頭に浮かんで消えた。

この長い期間の本人の涙ぐましい頑張り、我慢、努力。

お互いに口には出さなかったが、身障者の長男を世話する母親の気持ちと気苦労、身体の不自由な兄貴に対する弟の思いやりと献身。

家族みんなで協力して頑張ったよな？ 有難う！ 有難う！

それに周囲の方々の善意及び社会的な支援制度など感謝すべきことだらけだ。

哲也の発病は不幸なことではあったが、その後は非常な幸運が続いた。先ず、倒れた場所が路上とか出張先ではなく行きつけのスナックで、店の人が素早く救急車の手配をしてくれたこと。救急車がたまたま近隣を走行中で、倒れてから十分足らずで駆けつけてくれたこと。診療を引き受けてくれた国立国際医療センターは自宅から十分足らずの至近距離にあったこと。同センターでは入院と同時に、二か月後に転院する旨初台リハビリ病院に申し込みをしてくれたこと。

お世話になった初台リハビリ病院については既に詳述したが、自宅が東京都新宿区と至便の場所にあったことも幸いした。病院や鍼灸院への通院はタクシーを使用せずに済んだし、JR、地下鉄の各駅にはエスカレーター、エレベーターが完備し身障者の乗降への配慮が行き届いた体制が出来上がっていた。都から支給されるタクシーの割引券も大変有難かった。

家族が健康で若かったことも幸いした。仮に自宅内に介護の必要な老人がいたとか、父親が未だ現役で頻繁に海外出張を続ける境遇にあつたら、事態はもっと悲惨なことになっていたに違いない。

赤羽駅北口に近くのコスモス治療院。北京大学で習得したという高木香先生の針の威力は絶大であった。当初、やや馬鹿にしていた私も治療を見学し、哲也の体調が目に見えて回復するのを目の当たりにして、心底ほれ込んでしまった。哲也本人も効果が体感できるためか、すっかり気に入って、通うのが楽しみの中で、先生から、「天候が悪いので休診」との電話が入るとがっかりするくらいであった。

針治療をしながら始終哲也と会話して親が聞けないことを聞き出したり、好きな歌を合唱して会話力を高めたり、精神的な側面でも哲也の立ち直りを援助

して戴いた。

皆さん本当に、本当に有難うございました。

でもこれで終わりではない。私は父親として死ぬ迄息子の面倒を見ることになるだろうが、私が死んだ後は誰がみてくれるのか？ 考えてもキリがない。

こうして人は誰でも思いを残して死んでゆくのだろう。(了 9450字)